

第三段階 初期ユダヤ教宣教

D. イエスはユダヤで弟子を作り続ける

2. 洗礼者ヨハネによるイエスに関する最後の証言

デイリージーザスニュース #042

ヨハネ3.25-36

25 ヨハネの弟子たちとあるユダヤ人との間に、洗礼の問題で論争が起こった。 26 彼らはヨハネのもとに来て言った。「ラビ、ヨルダン川の向こう側であなたと一緒にいた人、あなたが決定的な証言をしたあの人があ、ごらんなさい、バプテスマを受けています。皆が彼のところに行きます。」

27 これに対してヨハネは答えた。「人は、天において神があらかじめ定めておられる奉仕の範囲しか持つことができません。 28 あなたがた自身も証言できます。『私はキリストではなく、彼より先に遣わされた者です。』

29 花嫁は花婿のものです。花婿に付き添う友人は花婿を待ち、花婿の声を聞いて喜びに満たされます。この喜びはわたしのものです。すでに満たされています。 30 彼はますます大きくなり、わたしはますます小さくならなければなりません。」

31 上から来た方は、すべてのものの上におられます。地から出た者は地に属し、地から出た者として語ります。天から来た方は、すべてのものの上におられます。 32 その方は、自分の見た事、聞いた事を証言されますが、その証言を完全に受け入れる者はいません。 33 それを受け入れた人は、神が真実な方であることを実証したのです。 34 神が遣わした方は、神の言葉を語ります。キリストは限りなく御靈を与えるからです。

35 父は子を愛して、すべてを子の手に委ねられました。 36 子を信じる者は永遠の命を持ちますが、子を拒む者は永遠の命を得ることができません。神の怒りがその上にとどまるからです。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルーカ =^L、ジョン =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。** 旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト

第三段階 初期ユダヤ教宣教

位置	ヨルダン川沿いのアエノン
タイムライン	西暦30年7月（第6月）
イエスの生涯	ステージ III: 初期ユダヤ教宣教
	D. イエスはユダヤで弟子を作り続ける
タイトル	2. 洗礼者ヨハネによるイエスに関する最後の証言

コメント：

これは聖書に記録されているバプテスマのヨハネの最後の証言です。ヨハネはこの時点でちょうど1年余り説教をしていました。最後の6ヶ月間、彼はイエスのもとに来る準備のできた求道者たちを絶え間なく導いていました。イエスが自ら進んで伝道していた人々にこれらの人々が加わるにつれて、主の宣教はヨハネの宣教よりも速く成長しました。ヨハネは、ヘロデとヘロディアの結婚は神の前で姦淫であると主張し続けたため、すぐにヘロデ アンティパスが彼を投獄することを知りませんでした。

イエスの生涯の「準備」の段階で、共観福音書には、ヨハネが人々に対して行った説教活動の初期の内容と方法が記録されていることがわかりました。ヨハネは、間もなく来られるメシアを信じる準備として悔い改めを、また罪を告白した者たちには清めの象徴として水に浸ることを呼びかけました。ヨハネの性格と活動の主な特徴については、以前の朗読で確認しました。

この箇所は、ヨハネの宣教の終わりに、彼自身とイエスに向けられた態度に焦点を当てています。洗礼者は時とともに変化したのでしょうか。彼の宣教の人気と影響力は彼に影響を与えたのでしょうか。この文章は、彼の最も重要な態度は変わっていなかったが、より深く、より強くなつたことを示しています。

ヨハネの自分に対する態度を最もよく表す言葉は、深い謙遜さでした(3.25-30)。ヨハネの証言の背景は、弟子たちの何人かの不安な発言でした。「見よ！彼(イエス)はバプテスマを施しておられ、皆が彼のところへ行きます。」(3.26)これらの言葉は、奉仕の結果を比較する競争的で傲慢な態度、そしてイエスの結果がヨハネの結果よりも良かつたときの失望を表しています。ヨハネはそのような傲慢さを否定しました。

ヨハネの謙遜は、彼の宣教の効果が神が定めた効果だけであるという認識に根ざしていました(3.27)。すべては神にかかるおり、ヨハネ自身にかかるているわけではありません。したがって、ヨハネは成功を自分の功績として受け取ることはできませんでした。さらに、ヨハネは救世主ではありませんでした。

第三段階 初期ユダヤ教宣教

た。彼の宣教は、人々がイエスを救世主として信じるように、イエスに人々を導くことでした。したがって、自分の弟子の一人がイエスのもとに行き、ヨハネを永遠に後に残してイエスに従い始めるたびに、ヨハネは失望ではなく喜びに満たされました。これはヨハネの考えでは成功であり、失望すべきことではありませんでした。これはヨハネの深い謙遜さを示しています。

1世紀の結婚式における花嫁の友人のイメージを用いています。イエスを花嫁と表現することは、教会が花嫁であることを暗示しています。ヨハネ神学のこの重要な要素は、イエスの後の結婚披露宴のたとえ話(共観福音書)と黙示録の「小羊の結婚の晩餐」のビジョンを結び付けています。新約聖書でイエスを花嫁、教会を花嫁と見なすこの豊かなイメージと意味は、洗礼者ヨハネにまで遡ります。

の道を指し示したすべての人にとってイエスがすべてになることを望みました。そのため、彼の目標は、イエスに従うために自分から離れるすべての人々の心と精神における自分の影響力を、自分が無に帰するまで減らすことでした。」彼の影響力は増大しなければならない。私の影響力は減少しなければならない。」自分自身と自分の奉仕に対するこの謙虚な姿勢は、私たち一人一人にとって素晴らしい模範です。

そして、31節から36節では、イエスに対するヨハネの謙虚な態度が述べられています。ヨハネはイエスのまったく唯一無二の神聖な栄光を見ました。彼の態度は、神の唯一の子の並外れた偉大さの前の純粋な謙虚さでした。ここでヨハネが主をどのように描写したかを考えてみましょう。

まず、預言者は、イエスがニコデモに語った以前の言葉(3.11-13)を繰り返し、天の事柄の証人として主が持つ独特の権威について語っています(3.31-33)。さらに、イエスの言葉は聖霊を限りなく授けました(3.34)。父なる神はイエスを愛し、神の豊かさのすべてを御子と分かち合いました(3.35)。したがって、イエスは永遠の命の唯一の源であり、不信頼でイエスを拒絶することは永遠の裁きをもたらします(3.36)。

これらはイエスの偉大さについて、特にイエスの宣教の初期の段階では、驚くべきことを言っていました。このような主張は、イエス・キリスト以外の誰に対しても行うことはできません。イエスについての洗礼者による最後の証言は、彼の宣教の頂点であり、完全にキリストを称える謙虚な心でイエスについて語られた最も偉大なことのいくつかでした。ここでの洗礼者の態度を、12使徒自身と比較してください。彼らは、自分たちの間で誰が最も偉大であるかについて何度も議論して時間を無駄にするでしょう。

、初期ユダヤ時代におけるイエスの宣教の始まりの成長と効果に大きく貢献しました。

イエスが洗礼者ヨハネを愛し、高く評価していたのも不思議ではありません。

応用：

第三段階 初期ユダヤ教宣教

ヨハネは真の弟子、そしてイエスの証人としての姿勢を体現しました。」イエスをもっと多く、自分を少なく。」これが洗礼者の心からの願いでした。これが謙虚さです。

ヨハネの態度は、あなたのことを正確に表していますか？イエスが“すべて”であり、あなたが“何者”でもないというあなたの情熱ですか？

あなたの人生において、イエス様の重要性に匹敵するものはありますか？もしそうなら、それを変えるために今日、どんな実際的なステップを踏みますか？